

国際連携に向けた I W G の動き

11月にフィリピンで、第6回 I W G (International Working Group) ミーティングが開催された。

- 本ミーティングは「第4回 E T V 国際フォーラム」に併せ開催された。(同フォーラムではフィリピン国内の関係政府機関、産業界等約180名の出席があり、カナダ、米国、EU、韓国、我が国等の E T V システムの紹介等が行われた。)
- I W G への参加は、メンバー国として、カナダ、米国、EU と今回からフィリピン。オブザーバー国として、日本、韓国、中国(今回は政府からは欠席)の他、今回は、マレーシア、カンボジア、ラオス、アセアン事務局(インドネシアから)が参加。
- I W G では、将来的な国際連携・相互認証に向けた活動(誰でも、どこでも、いつでも、1回の申請で実証が行われることが目標)を行っている。
- 現在は、国際連携に当たり統一した考え方が必要と考えられる12の事項(Work plan Item)が掲げられ、それぞれの事項について、各メンバー国の現状を洗い出すとともに、それぞれについてメンバー国間で担当国が割り振られ、今回の I W G ミーティングから議論が始まったところ。
- この中で、特に I W G が重点を置いて取り組んでいる事項は Item#3 の”QA systems: use of ISO for quality management systems and test plans / protocols”(品質管理システムとテストプランへの ISO の適用)。ここでは、実証機関、試験機関等の“機関の質”やテストプラン、プロトコル等の“得られるデータの質”に係るものの保証をどのように行うのが議論となっている。各国に共通した取り扱いが可能となる手段として、ISO の活用が検討されている。具体的には、関係機関には ISO9001 を課すことや試験機関等の選定(認定)に当たっては ISO17025(認定機関)を課すこと、個別の実証方法については、標準化されたものがないことから個別の ISO の確立を目指すことなどが今後議論される予定。
- 12の Work plan Item について今後の I W G ミーティングで具体化されていくと共に、今後5年程度かけて2国間、複数国間の相互認証の具体例を積極的に作っていくこととしている。EU では、域内の連携(Advanced ETV)が始まったところであり、米・加では、今年度より2年間の予定で協働実証を始めたところ。これら相互認証の具体例を積み上げつつ、Work plan Item 等については、相互が受け入れ可能なものとなるよう適宜見直しを図っていくものと考えられる。
- 米・加の協働実証は、”remote sensing of ethane and methane”分野において、カナダの1企業の技術を対象に行う。米国 EPA のリードで試験プラン等が作成され、逐

ーカナダ側への確認作業、企業への手数料の見積もり提示が行われ、リバイスされるという作業を繰り返している。来年度より、実際にテストに入る予定。

- また、カナダでは、協働実証ではないが、バングラデシュに対してODAで実証事業に係る技術移転を行っている（浄水分野）。

- オブザーバー各国の状況を見ると、韓国は現時点で、IWGへのメンバー入りについては未定とのこと。韓国の代表者は、メンバー入りより我が国とシステムについて情報交換を積極的に行い、連携に向けて考えたいと話していた。

- アセアン各国は、今回はフィリピンで開催されたため参加しているが、各国ともこれから実証について取り組むという段階。